



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	小特集 科学技術コミュニケーションは何を生み出したのか
Author(s)	川本, 思心
Citation	科学技術コミュニケーション, 16, 1-3
Issue Date	2014-12
DOI	https://doi.org/10.14943/67825
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/57614
Type	departmental bulletin paper
File Information	web_CoSTEP16_1.pdf



小 特 集

科学技術コミュニケーションは何を生み出したのか

2007年に創刊した本誌の目的は、科学技術コミュニケーションにおける様々な活動の成果を蓄積・相互評価し、当分野の累積的發展に寄与することにある（杉山 2007）。

本誌のタイトルにもなっている「科学技術コミュニケーション」とは何か、いつから始まったのか、ということ自体に議論があるところだが、一つの見方として今年は10年目の年とすることができるだろう。2004年『科学技術白書』において科学技術コミュニケーションが大きく取り上げられ（文部科学省 2004）、2005年には北海道大学CoSTEPを始めとした教育プログラムが各地で始まった。

この間、数多くの教育・実践・研究活動がおこなわれてきた。また、科学技術コミュニケーションに大きな影響を与える様々な出来事があった。科学技術コミュニケーションは評価や批判を受けつつ、トップダウンとボトムアップの両面からここに至っている。では、これまでの活動によって、個人や社会に何を生み出し、何を生み出せなかったのだろうか。

科学技術コミュニケーションの「これまで」を振り返り、「これから」の議論に資する論考を集めたのが本小特集である。

第一部：記念フォーラム「10年目のCoSTEPと科学技術コミュニケーション」

第一部は、2014年7月5日にCoSTEP主催で開催した「10年目のCoSTEPと科学技術コミュニケーション」の登壇者の発表内容を加筆修正して寄稿して頂いたものである。

登壇したのは、CoSTEP修了生の齋藤有香氏（毎日新聞科学環境部 記者）、中村景子氏（（株）スペースタイム 代表取締役社長）、定池祐季氏（東京大学大学院情報学環 特任助教）、奥村政佳氏（アカペラボーカルグループRAGFAIR・気象予報士・防災士・保育士）の4氏である。フォーラムではまずCoSTEP初代代表の杉山滋郎氏が講演を行った。その後、上記4氏がCoSTEP修了後にそれぞれの立場でどのように科学技術コミュニケーションを捉えなおし、実践しているかについて語っていただいた。なお、CoSTEPの10年の取組みについては杉山（2014）による『CoSTEP私史』も御参照頂きたい。

第二部：投稿報告

第二部は、本小特集に投稿された論考である。科学技術コミュニケーションの蓄積と動向の一片を知ることができるだろう。

本誌はこれまで16号を発行し、あわせて177本の論考を掲載してきた¹⁾。それらも科学技術コミュニケーションの10年を振り返る上での一つの材料となるはずだ。キーワード²⁾から作成したタグクラウド³⁾が図1である。詳細な分析は今後諸氏に期待したいが、これによって、本誌で論じられてきた「科学技術コミュニケーション」の傾向を一定程度把握することができる。

[illegible]

今後、ここに加わるキーワードは何なのだろうか。10年が過ぎたとはいえ、科学技術コミュニケーションを未来へ続く大河になぞらえて言えば、いまだ源流の水しぶきにすぎないのかもしれない。これらの言葉がいずれ大きな流れを形作るかどうかは、我々次第である。本誌が、絶えず変化する社会の流れをとらえることで、科学技術コミュニケーションの発展に貢献できれば幸いである。

– 2 –

注

- 1) 52本の論文, 112本の報告, 13本のノートからなる。なお, ノートは15号から設定された原稿種別であり, それ以前の原稿種別であるインタビュー・談話室・紹介・オピニオン・フィールドノートを合わせてノートとして算出した。
- 2) キーワードは著者が1原稿につき5つまで設定することができる。177本の論考のキーワード合計数は722である。
- 3) タグクラウドとは, 使用頻度が高い単語を大きく, 低い単語を小さく表示することで, テキストの特徴を表した図である。図1はWordle (<http://www.wordle.net/>) で作成した。設定はFont: coolvetica; Layout: Straighter edge, Horizontal; Color: Moss。フォントの色はランダムに割り当てられており, 意味はない。なお"AAAS" と"American Advancement Association of Science" のように略称と正式名称がある場合はどちらかに統一した。また, "Scientific Literacy" と"Science Literacy" といったほぼ同義のキーワードもどちらかに統一した。

●文献：

文部科学省 2004:『平成16年版 科学技術白書 第1部：これからの科学技術と社会』

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa200401/ (2014年12月18日閲覧)

杉山滋郎 2007:「創刊の辞」『科学技術コミュニケーション』1, 1-2.

杉山滋郎 2014:「CoSTEP私史」『記念誌CoSTEP10周年のつどい』105-137. <http://hdl.handle.net/2115/56554>
(2014年12月18日閲覧)